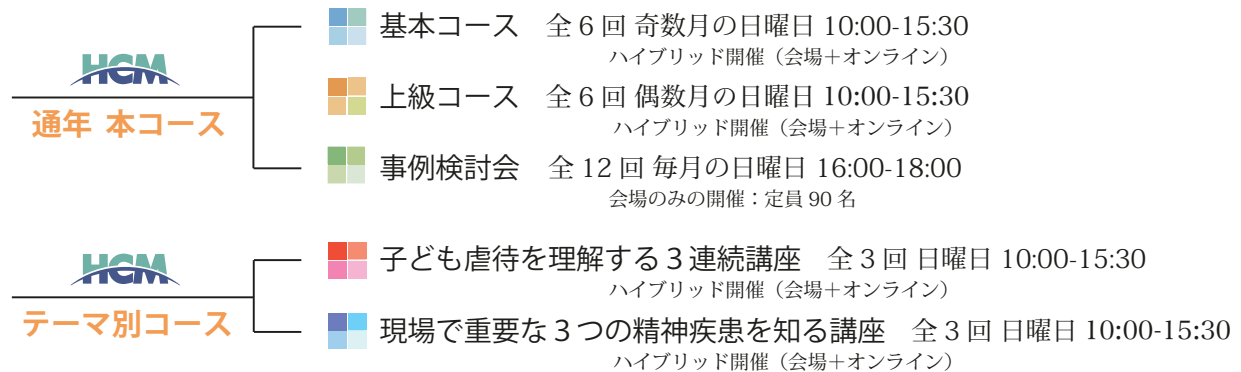


HCM カウンセリングセミナー 2025 全コースご案内



HCM カウンセリングセミナーは、医師・看護師・公認心理師・精神保健福祉士・社会福祉士・介護福祉士・養護教諭など、現場を持つ専門家の方々を対象にした講座で、開催して 21 年目になります。このセミナーの基盤となっている理論は、

①〈見立て 8 型〉メソッドと②HCM カウンセリング技法〈葛藤崩壊療法〉の 2 つです。

①〈見立て 8 型〉メソッド：「見立て」とは、カウンセラー・ケースワーカー・支援者がクライアントの悩みや不適応の原因を分類して理解することです。見立ての枠組を持てるようになると、ケースの理解が飛躍的に進み、支援者側も安心してクライアントに向き合うことができます。当メソッドで採用している 8 個の見立て＝〈見立て 8 型〉を表に示します。

	〈見立て 8 型〉＝悩みの見立て 4 つ＋不適応の見立て 4 つ
悩み	1. 学童期 / 「成人学童期」の葛藤 2. 思春期の葛藤 3. 成人期の葛藤 4. 被虐待者「異邦人」の葛藤
不適応	5. 「軽度」知的能力障害 6. 自閉症スペクトラム障害 7. 統合失調症など 8. 認知症 / 高次脳機能障害

医療・保健・福祉・カウンセリング・教育の現場で、治療・ケースワーク・カウンセリングがうまく進まない時、その原因のほとんどは、「見立て」の誤りにあります。「見立て」とはクライアントの悩み・不適応の本質を分類することです。当セミナーでは見立てを 8 つに分類します。この分類方法が当セミナーの中心となる考え方で〈見立て 8 型メソッド〉です。うつ病を例にして考えてみます。多くのうつ病は (i) 成人期の心理的葛藤を土台にして発病します。成人期の場合、治療はよく知られているように服薬と精神療法です。しかし、(ii) 思春期の葛藤を土台にしたうつ病の場合、うつ症状は非定型的（神経症性うつ病・軽症うつ病・「新型うつ病」）となって、抗うつ薬はあまり効きません。症状が発生する土台が親子葛藤にあるため、そこに注目した精神療法が必要になります。さらに (iii) 被虐待体験（トラウマ）をかかえた人（＝被虐待者「異邦人」）のうつ病は、典型的には「反復性うつ病」・「バーンアウト症候群」となり、標準的なうつ病治療法は通用せず大幅に修正して適用する必要があります。(iv) 認知症 / 高次脳機能障害のうつ病の場合は本人の治療よりも家族支援に重点をおくべきです。このように (i)～(iv) の見立ての違いによって同じうつ病でも治療・ケースワーク・カウンセリングの重点の置き方が異なってきます。〈見立て 8 型〉を用いることで、臨床現場で出会う事例の 98% 以上の正確な見立てを作り、治療方針を立てることができます。

②HCM カウンセリング技法：〈葛藤崩壊療法〉とは、傾聴を軸とするカウンセリング技法で、カウンセリングの開始から終結までを 3 つの段階、すなわち、第Ⅰ期 - 不安・抑うつ期、第Ⅱ期 - 崩壊期、第Ⅲ期 - 再生期に分けて考えます。第Ⅰ期 - 不安・抑うつ期では、傾聴に徹したカウンセリングを行います。いわゆる「支持的療法」と同じもので〈見立て 8 型〉の全てのクライアントに適用できます。一方、第Ⅱ期 - 崩壊期、第Ⅲ期 - 再生期は悩みの本質である「葛藤」を抱えてその解決（葛藤の崩壊）を目指します。〈見立て 8 型〉のうち、「悩み」を抱えたクライアントである 4 つの「見立て」に適用できます。

- 講師 ■ 高橋和巳（精神科医・風の木クリニック）
■ 野口洋一（公認心理師・あさくさばしファミリーカウンセリングルーム）

主催



全コースの日程と講義内容

通年 本コース

	基本コース 全 6 回 奇数月の日曜日 10:00-15:30 ハイブリッド開催（会場＋オンライン）	〈見立て 8 型〉の基本と傾聴技法を学び、ついで現場で最も重要な 4 つの見立て、1- 成人期、2- 思春期、5- 「軽度」知的能力障害、4- 被虐待者「異邦人」を詳しく解説します。
	上級コース 全 6 回 偶数月の日曜日 10:00-15:30 ハイブリッド開催（会場＋オンライン）	愛着形成を軸に〈見立て 8 型〉をまとめ、カウンセリング技法〈葛藤崩壊療法〉の全体を学びます。ついで、2- 「成人学童期」、7- 統合失調症、6- 自閉症、8- 認知症 / 高次脳機能障害の 4 つの見立てを学びます。
	事例検討会 全 12 回 毎月の日曜日 16:00-18:00 会場のみの開催：定員 90 名	守秘義務厳守のため会場開催のみ。会場の基本コース・上級コースに引き続いて実施されます。参加者から提出された事例をその場で検討し、見立てを作り、進行具合を評価して今後の方針を立てていきます。

テーマ別コース

	子ども虐待を理解する 3 連続講座 全 3 回 日曜日 10:00-15:30 ハイブリッド開催（会場＋オンライン）	第 1 回目は「なぜ虐待が起きるのか？」を詳しく検討します。第 2 回、第 3 回は基本コースの 4 回、5 回と合同です。虐待の世代間連鎖説の検討を行います。
	現場で重要な 3 つの精神疾患を知る講座 全 3 回 日曜日 10:00-15:30 ハイブリッド開催（会場＋オンライン）	デイケア、作業所、介護などの現場で重要な 3 つの精神疾患：発達障害・統合失調症・認知症をもう一度、勉強し直しましょう。きっと支援方法が変わります。

各コースの参加費と受講方法を選択するヒント

会場（御茶ノ水ソラシティ）受講と、オンライン（Zoom）受講の 2 通りの方法があります。

会場での受講の場合は、講義後に引き続く事例検討会とセットになります。

オンラインを予約した場合でも、会場受講に変更することができます（1 カ月前から受付 / 変更料金  **5,000 円**）
ただし会場が定員に達した場合は変更の募集を行わないことがあります。ご注意ください。

◆通年の「本コース」を中心に受講する場合（HCM に初めて参加する方に推薦）

テキスト代込
3,600～7,400 円お得

	基本＋上級コース＋事例検討会（会場 / 毎月全 12 回）	120,000 円（税込 / テキスト代込）
	基本＋上級コース（オンライン / 毎月全 12 回）	60,000 円（税込 / テキスト代込）
	基本＋事例検討会（会場 / 隔月全 6 回）	60,000 円（税込 / テキスト代込）
	基本コース（オンライン / 隔月全 6 回）	30,000 円（税込 / テキスト代込）
	上級＋事例検討会（会場 / 隔月全 6 回）	60,000 円（税込 / テキスト代込）
	上級コース（オンライン / 隔月全 6 回）	30,000 円（税込 / テキスト代込）

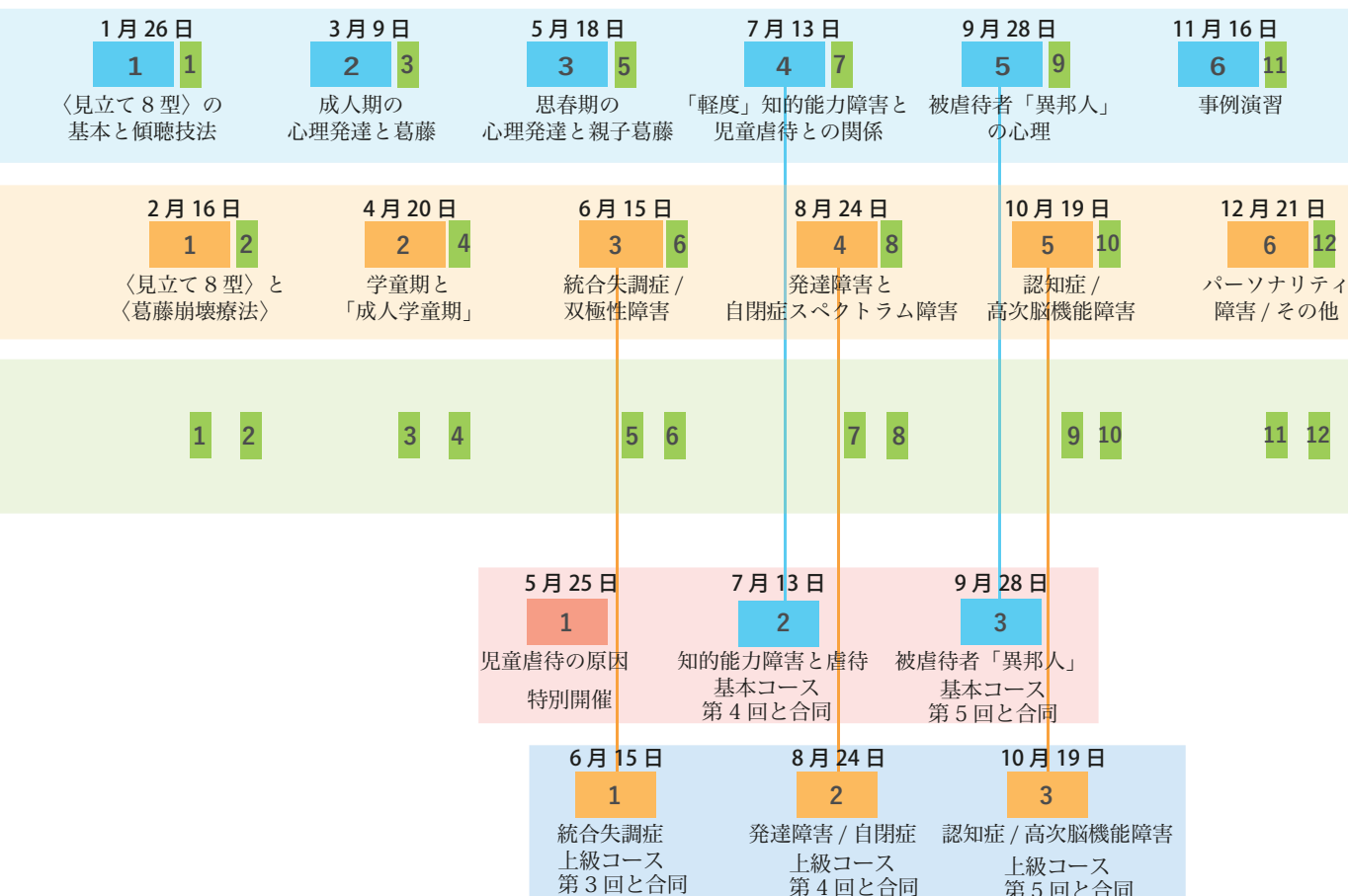
参加者の経験に応じてどのコースからでもご参加できます。ただし、講義は基本→上級の順で学んでいくように構成されていますので、上級は基本を学んでいることを前提に進みます。この点、ご注意ください。

◆別途、テキストを購入する場合の料金（アマゾン / 金剛出版からも購入できますが当事務局からの購入がお得です）

	HCM カウンセリングセミナー講義テキスト 基本コース第 5 版（A4 版 318 ページ）	3,800 円（頒価）
	HCM カウンセリングセミナー講義テキスト 上級コース第 5 版（A4 版 262 ページ）	3,600 円（頒価）

2025

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月



◆事例検討会だけに参加 (HCM の一通りの受講を終えて現場の実践を続けられている方などにお勧め)

- 事例検討会 (会場 / 全 12 回 / 年間を通じてお席が確保されます) 55,000 円 (税込)
 - 事例検討会 (会場 / スポット参加) 5,000 円 (税込)
- 会場が定員に達した場合はスポットの募集を行わないことがあります。ご注意ください。

◆テーマ別コースを希望する方 (まずは興味ある分野の勉強したい方にお勧め)

講義テキストをお持ちでない方は別途テキストの購入が必要です (本欄左下)。子ども虐待は「基本コーステキスト」、3つの精神疾患は「上級コーステキスト」をご用意ください。

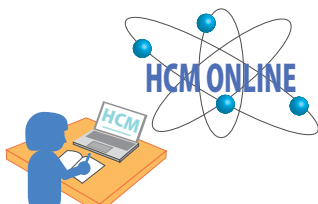
- 子ども虐待3連続講座+事例検討会 (会場 / 全 3 回) 30,000 円 (税込)
- 子ども虐待3連続講座 (オンライン / 全 3 回) 15,000 円 (税込)
- 3つの精神疾患を知る講座+事例検討会 (会場 / 全 3 回) 30,000 円 (税込)
- 3つの精神疾患を知る講座 (オンライン / 全 3 回) 15,000 円 (税込)

◆スポット参加 (興味ある講義をもう一度聞きたい、時間の都合でその都度受講を決めたい方などに)
各コースのどこかの回 (講義) だけを受講したい場合にご利用ください。全てのコース、全ての回で利用できます。
スポット参加は開催日の 1 カ月前から HP 上で募集を開始します。
会場スポットは定員に達している回は募集されない場合もあります。オンラインスポットの定員はありません。

- スポット 会場講義+事例検討会のスポット参加 11,000 円 (税込)
- スポット オンラインのスポット / 上記以外のスポット参加 5,000 円 (税込)

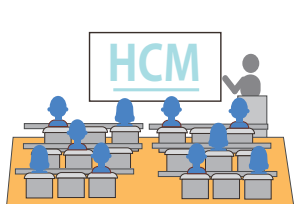
ハイブリッド：御茶ノ水会場・自宅でオンラインの2つの参加方法

ハイブリッド方式（会場＋オンライン）で実施します



オンライン配信
（ご自宅で）

Zoomを用いてパソコン、スマホで簡単に接続できます。



会場での開催
（東京・御茶ノ水）

セミナー終了後は、引き続き事例検討会を行います。

- ①御茶ノ水会場での参加、②ご自宅でオンライン (Zoom) で参加の2つから参加方法を選べます。
会場参加の場合は講義 (10:00-15:30) と事例検討会 (16:00-18:00) がセットになります。
「事例検討会のみ」参加も可能です。会場で「講義のみ」参加の場合は、終日と同じ参加費となります。
守秘義務を厳重に管理するため、事例検討会のオンライン配信はありません。

	10:00	12:00	13:00	15:30	16:00	18:00
①会場での開催	講義と質疑応答	昼休	講義と模擬事例演習		事例検討会	
②オンライン配信	講義と質疑応答	昼休	講義と模擬事例演習			

ランチョンセミナー：新たなテーマや注目される心理社会的トピックを取り上げ、＜見立て8型＞でこれらを読み解きます（2024年実施例：「被虐二世」、「8050問題」など）。話題は毎回変わります（お楽しみに）

申込方法

ステップ1：メンバー登録

■ HCM カウンセリングセミナーに参加するためには、**メンバー登録**が必要です。HCMのホームページ（下記のQRコード）から登録ができます。登録の際に参加資格を確認させていただきます。

■ 参加資格

カウンセリング、ケースワーク、医療、保健、福祉、介護、教育、他の相談業務などに関わる有資格の専門職の方。

1. 医師・保健師・看護師・公認心理師・臨床心理士・精神保健福祉士・社会福祉士・介護福祉士・産業カウンセラー等、専門資格（公的資格、民間資格を問いません）をお持ちで、守秘義務を十分に理解する方。

2. 上記の資格以外の方や医学系・心理系・福祉系などの専門学校、大学の学生の場合は事務局で個別の許可を得てください。守秘義務についての説明をさせていただきます。

■ **受講ID**：メンバー登録が終わると受講IDが発行されます。HCMが主催するセミナーの参加に必要なIDです。（受講ID＝4桁の数字＋名前（姓）、例：9123 神田）

HCM ホームページ <https://hcm-seminar.net>



ステップ2：セミナー参加申込

■ **申込受付開始：2024年12月20日（金）** ホームページで各コースの受付を開始します。（※スポット参加は開催日の1カ月前から受付開始します）

支払期限、キャンセルの扱い、セミナー中止時の返金等につきましては、ホームページのキャンセルポリシー（<https://hcm-seminar.net/cancelpolicy2025/>）をご参照ください。

セミナーでお会いしましょう

■ 一般社団法人 HCM カウンセリングセミナー事務局

（あさくさばしファミリーカウンセリングルーム内 担当：野口・石井・義達）

〒111-0053 東京都台東区浅草橋 1-3-15 リバーサイド浅草橋 803

tel 03-5809-2589 / e-mail : info@hcm-seminar.net

（お問い合わせはメールにてお願い致します）

講師紹介 / セミナー参加者のプロフィール

■ 高橋 和巳氏

■精神科医 医学博士 1953 年生

■風の木クリニック院長(千代田区・隼町) <https://www.kazenoki.jp/>

慶應義塾大学文学部を中退、福島県立医科大学を卒業後、東京医科歯科大学にて睡眠脳波・大脳生理学・脳機能マッピング等の脳科学研究を行った。長く都立松沢病院に勤めて統合失調症などの精神科一般の診療の他、精神科救急やアルコール専門外来、家庭内暴力・拒食症・引きこもり等の家族問題に関わってきた。同院精神科医長を退職後は 2004 年に風の木クリニックを開業し診療を続けている。カウンセラーの教育のために当「HCM カウンセリングセミナー」の講師を続け、子ども虐待問題の理解のためにさまざまな研修や事例検討を行っている。

著書に、『親は選べないが人生は選べる』、『精神科医が教える聴く技術』、『「母と子」という病』(ちくま新書)、『消えたい』、『子は親を救うために「心の病」になる』、『人は変われる』(ちくま文庫)、『新しく生きる』(三五館)、『私は悪い子?』(学習研究社) など多数がある。

■ 野口 洋一氏

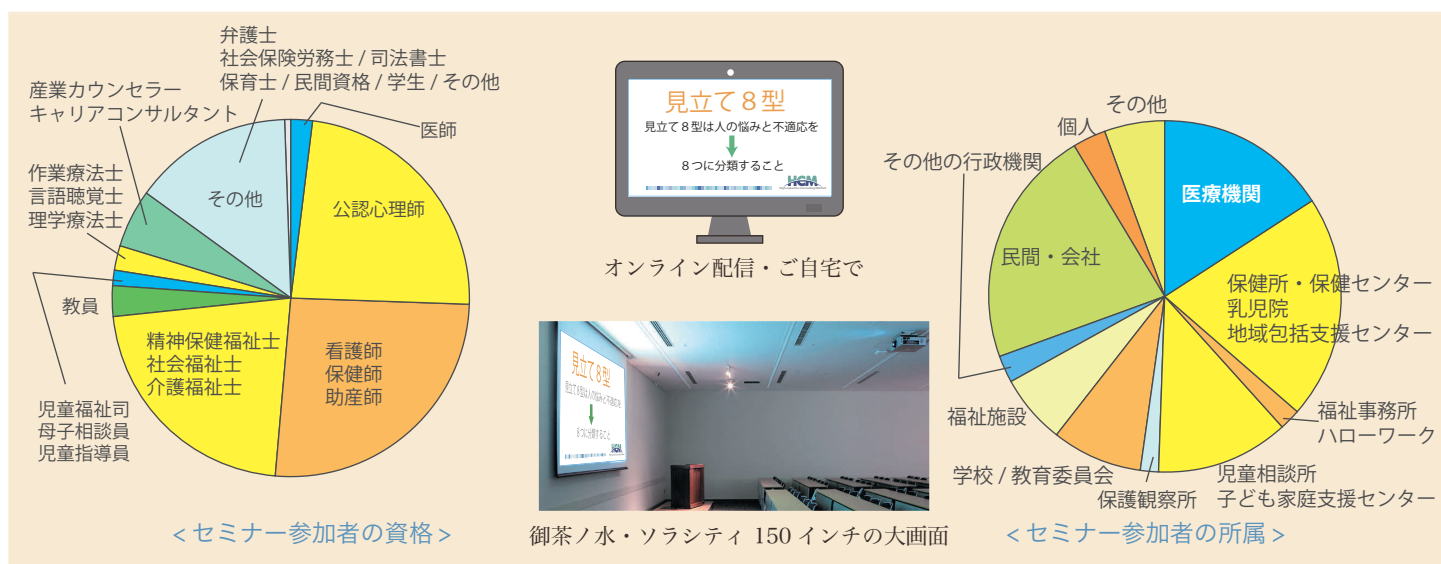
■公認心理師 精神保健福祉士 1961 年生

■あさくさばしファミリーカウンセリングルーム室長(台東区・浅草橋) <https://www.asakusabashi.net/>

早稲田大学、明治学院大学卒業。心理学、精神保健学、ソーシャルワーク等を学ぶ。精神科医療機関に PSW として勤務し(依存症病棟・外来)、主に嗜癮関連問題、家族関係問題に取り組む。その後は 1998 年 4 月にあさくさばしファミリーカウンセリングルームを開設し、現在に至る。上記の他、引きこもりや摂食障害など思春期問題、うつや育児不安など大人のメンタルヘルス、虐待被害など心的外傷問題に至る幅広い分野でカウンセリングやスーパーヴィジョンを行っている。プライベートプラクティスの他、都立精神保健福祉センター助言者(嗜癮関連問題・思春期問題助言者)、杉並区、豊島区、練馬区など各区保健センター、子ども家庭支援センター助言者(虐待困難事例)、東京保護観察所アドバイザー研修講師等を務める。社会福祉法人ぱれっと理事長。著書に『家族の心理 変わる家族の新しいかたち』(金剛出版)がある(分担執筆)。

■ セミナー参加者のプロフィール

セミナーに会員登録をされた方々のプロフィール(資格と所属機関)を紹介します(2024 年 9 月現在、1115 名登録)。



■ **現場別の講義の選び方ヒント** (本コースを受けるのが理想ですが、忙しい方のために以下のような組み合わせの推薦があります)

- ◆ **カウンセリング技法**(葛藤崩壊療法)をまず学びたい: 基本 1+基本 2+上級 1
- ◆ **高齢者虐待の現場**にいる: 基本 1+基本 4+上級 5
- ◆ **児童虐待の現場**にいる:「子ども虐待の 3 連続講座」
- ◆ **教育現場**で不登校問題をかかえている: 基本 2+基本 3+基本 5
- ◆ **作業所・デイケア・就労支援**で仕事をしている「現場で重要な 3 疾患」のうち必要なもの+基本 5
- ◆ **保護観察所 / 社会復帰調整官**の仕事をしている: 基本 4+基本 5+上級 3
- ◆ **産業保健分野・EAP**: 基本 1+基本 2+基本 5 (+上級 2)

■ 基本コース (全6回・奇数月の日曜日)

HCM カウンセリングセミナーに初めて参加される方はこのコースから受講を始めてください (推薦)。

第1講で<見立て8型>理論、見立ての作り方と、カウンセリングで最も大切な「傾聴技法」を最初に学びます。第2講で学ぶ成人期は人の心を理解する基準になり、またカウンセラー自身の自己理解として大切です。この理解ができて初めて、第5講の被虐待者「異邦人」の心の理解 (存在の不安定さ・複雑性 PTSD・解離性障害など) ができるようになります。

	午前 / 10:00-12:00	午後 / 13:00-15:30	16:00-18:00 (会場)
1 1月26日	■ 1<見立て8型メソッド>を学ぶ 1 <見立て8型>と ABC 3つの基準 A 愛着と愛着障害 B 脳機能障害 C 心理発達段階と倫理規範 2 エリクソン心理発達理論との対比	■ 2正確な「見立て」を作る手順 1 正確な見立てを作る傾聴技法 2 見立ての実際 相談経路から始める評価 3 見立ての<基本4型>の重要性 実践データから	■ 事例検討
2 3月9日	■ 3定型心理発達 ①成人期 1 成人期葛藤の見立て カウンセリングの基本技法 2 成人期の精神疾患と治療過程 うつ病、パニック障害、 アルコール依存症など	■ 演習Ⅰ. 成人期 / 模擬事例 成人期事例のカウンセリング 1 成人期葛藤を見極める 2 成人期葛藤が傾聴によって 解決し、症状が治癒する過程を 理解する	■ 事例検討
3 5月18日	■ 4定型心理発達 ②思春期 1 思春期葛藤の見立て 「大人になる」ために必要な反抗期 2 思春期に特有な精神疾患と治療 摂食障害、引きこもり、 薬物乱用など	■ 演習Ⅱ. 思春期 / 模擬事例 思春期事例のカウンセリング 1 思春期葛藤と親子関係の対立が 「痛み分け」になる解決を理解 2 親へのアプローチと、子への アプローチの違いを理解する	■ 事例検討
↑「子ども虐待3連続講座」と合同 4 7月13日	■ 5「軽度」知的能力障害と児童虐待 1 発達障害の心理、行動、 不適応問題を理解する 2 発達障害の分類と知的能力障害、 境界知能の理解 3 親の発達障害と児童虐待との関係	■ 演習Ⅲ. 「軽度」知的能力障害 / 模擬事例 「軽度」知的能力障害の見立て方 1 軽度知的能力障害～ 境界知能の領域を見極める 2 鑑別のための質問技法を 理解する	■ 事例検討
5 9月28日	■ 6非定型心理発達 被虐待者「異邦人」 1 「異邦人」の心理発達過程と カウンセリングの技法 2 「異邦人」に特有の精神疾患 反応性愛着障害、解離性障害、 非定型的うつ病、摂食障害など	■ 演習Ⅳ. 被虐待者「異邦人」 / 模擬事例 「異邦人」事例のカウンセリング 1 変則的な母子関係の評価方法を 理解する 2 能動的受容の必要性和 その介入技法を理解する	■ 事例検討
6 11月16日	■ 演習Ⅴ. / 模擬事例 予告なしの事例・応用演習	■ 演習Ⅵ. / 模擬事例 予告なしの事例・応用演習	■ 事例検討

* 模擬事例は上記内容と変わる場合があります。

■ カウンセリング講義・精神医学講義

I. 正しい見立てを作り、効率的なカウンセリングを行うために必要な理論を学びます

1. **〈ABC 軸理論〉による見立ての作り方**：正しい見立てがなければ、治療・支援・カウンセリングは進みません。

〈見立て8型〉は現場に必要な見立てを8つに絞り、効率的に見立てを作れるシステムです。以下に示すABCの3つの軸によって患者・相談者・クライアントの悩みや不適応の本質（＝見立て）を分類します。

A：Attachment 愛着：クライアントの幼少時の養育環境（母子の愛着関係）について判定します

B：Brain dysfunction 脳機能障害：特に発達障害（「軽度」知的能力障害）の有無を判定します

C：life Cycle 心理発達段階：クライアントが成人期の心理発達に達しているか否かを判定します

2. **HCMのカウンセリング技法：〈葛藤崩壊療法〉/〈5ステージ傾聴技法〉**：傾聴の技法は①正しい見立てを作るためと、②心理発達を促すカウンセリングのために必要です。5つのステージうち、基本コースでは「stage-1 黙って聴く」と「stage-4 葛藤を聴く」（の一部）を講義します。残りの「stage-2 賛成して聴く」と「stage-3 感情を聴く」、「stage-5 理解を伝える」と、〈葛藤崩壊療法〉の全体は上級コースで学びます。

II. 定型心理発達と関連する精神疾患の理解を深めます

定型心理発達とは、「愛着障害のない」母子相互関係を基盤にした心理発達で、発達理論が暗黙の前提としてきたものです。

1. **成人期心理と関連する精神疾患** 成人期は、揺れ動く思春期を越えて達成される安定期ですが、その入り口の成人Ⅰ期では、原家族から引き継いだ問題が未解決のまま残り、安定期である成人Ⅱ期に到達するにはこれらを解決しなければなりません。この段階で発生しやすい精神疾患は、うつ病（大うつ病・中等度以上）、パニック障害、アルコール依存症などで、その詳しい発生メカニズムを学び、「傾聴の技法」によって、成人Ⅰ期葛藤が解決していく仕組みを理解します。

2. **思春期心理と関連する精神疾患** 思春期の心的葛藤は、親子間の対立（緊張・暴言・暴力）となって現れます。子が発する問題は、親に自らの生き方を内省させ、修正を迫り、親も子と一緒に揺れます。親子間葛藤による精神的混乱は子の不登校・引きこもりや摂食障害、薬物乱用などに表れます。子が治療に来ることは稀で、親のカウンセリングが必要です。

III. 非定型心理発達と関連する精神疾患の理解を深めます

非定型心理発達とは、母親に発達障害や精神障害があるために「愛着のある」母子相互関係を持てずに育った人の心理発達です。母親に発達障害や精神障害があると、子は多かれ少なかれ虐待（ネグレクトは必発で、状況により身体的、心理的、性的虐待が加わります）を受けてしまうことになります。**非定型心理発達は被虐待者「異邦人」の心理発達**です。彼らは幼少期から生理的・心理的な欲求を十分に満たされないままに成長します。生理的欲求の充足が少ないと「存在」のリアリティーが希薄になり、心理的欲求の充足が不十分だと（社会的）「自我」を確立することができません。通常の幼児期→学童期→思春期という心理発達をたどることなく、思春期を経ずに成人期に到ります。関連する精神疾患は、反応性愛着障害、脱抑制型対人交流障害、反復性うつ病（バーンアウト症候群）、解離性障害、非定型的摂食障害、パニック障害、不眠などです。

IV. 「軽度」知的能力障害と児童虐待との関係を学びます

この領域は精神科の臨床でも正確な診断をされることは少なく、その時々症状によって、境界性人格障害、自己愛性人格障害、うつ病、双極Ⅱ型障害などさまざまな診断名がついています。共通してその背景にあるのは対人理解、社会理解の未熟性（社会的領域の知的機能と適応機能の両面の欠陥：DSM-5）ゆえの不適応状態です。この見立てができるようになると、これまで見えなかったさまざまな側面が明らかになり、治療の方針も立てやすくなります。また、「軽度」知的能力障害は児童虐待が起こる原因とも深く関わっています。児童虐待の死亡事例やその統計、私たちの経験を紹介し、両者の関係を学びます。

■ 事例検討会（会場みのプログラムです / オンライン配信はありません）

■ 上級コース (全6回・奇数月の日曜日)

基本コースを終えられた方はこのコースにお進みください。カウンセリング・精神医学の知識を持っている方は最初から参加することも可能です。**第1講**で倫理規範、愛着形成と〈見立て8型〉との関係を学び、〈見立て8型〉全体を完成させます。またHCMのカウンセリング理論〈葛藤崩壊療法〉を学びます。**第2講**の「成人学童期」は被虐待者「異邦人」と並んで本講座独特の見立て分類です。**第3/4/5講**は現場で最も大切は精神疾患です。そして、**第6講**では議論の多い「パーソナリティ障害」について歴史的背景からDSM, ICDの改訂内容を知ることができます。なぜ〈見立て8型〉にパーソナリティ障害が入っていないかが解き明かされます。

	午前 / 10:00-12:00	午後 / 13:00-15:30	16:00-18:00 (会場)
1 2月16日	■ 1<見立て8型>の展開 1 <見立て8型>の3つのキーワード 2 倫理規範と愛着形成 3 心理的評価・行動的評価・家族配置 (コンステレーション)の評価	■ 2 葛藤崩壊療法 1 葛藤崩壊療法とは 進行の3期 / 適用対象と範囲 2 5ステージ傾聴技法 1. 不安抑うつ期 2. 崩壊期 3. 再生期	■ 事例検討
2 4月20日	■ 3学童期と「成人学童期」 1 学童期心理と見立て方 2 「成人学童期」の母親を持つ子 の問題 3 思春期 (反抗期) を越えていない 場合の心理発達の諸相	■ 演習Ⅰ. 「成人学童期」 / 模擬事例 ① 「成人学童期」の母面接事例 ② その子の面接事例 1 成人期心理との相違点 2 その子が心理発達に難渋する 心理とその母子関係を学ぶ	■ 事例検討
3 6月15日	■ 4統合失調症と統合失調症型障害 1 遺伝子と多因子疾患 / 2 精神障害 3 統合失調症の精神医学的理解 4 精神療法 / リハビリテーション 5 統合失調症に誤診されやすい疾患 6 統合失調症型障害	■ 演習Ⅱ. 統合失調症 / 模擬事例 ① 初期介入事例 ② 慢性期カウンセリング事例 1 統合失調症の発症の兆候を読み取り、 早期の介入を試みる 2 慢性期の心理を理解する	■ 事例検討
4 8月24日	■ 5発達障害・自閉症スペクトラム障害 1 発達障害の精神医学的理解 2 自閉症スペクトラム障害の 精神医学的理解 3 心理的理解とカウンセリング/ ケースワーク	■ 演習Ⅲ. 自閉症スペクトラム障害 / 模擬事例 ①本人の面接事例 ②母親のカウンセリング事例 母子双方の訴えや言葉から、本人の症 状や心理、その母の心理を理解する	■ 事例検討
5 10月19日	■ 6認知症・高次脳機能障害 1 脳の構造と機能 2 認知症の精神医学的理解 3 アルツハイマー病による認知症 4 高次脳機能障害の精神医学的理解 5 対応・ケースワークの要点	■ 演習Ⅳ. 脳機能障害 / 模擬事例 ① 高次脳機能障害患者の 家族カウンセリング事例 ② 認知症本人の面接事例 認知症本人、家族双方の言葉から その症状と心理、支援の方法を知る	■ 事例検討
6 12月21日	■ 7パーソナリティ障害を見立て直す 1 DSM-5 のパーソナリティ障害 (PD) 10 類型を<8型>から見立て直す 2 反社会性 PD / 行為障害 3 ICD-11 「パーソナリティ症」 4 境界性 PD 小事例解説	■ 8「共依存」「AC」「バーンアウト 症候群」を見立て直す 1 諸定義、概念と沿革、論点の整理 を行い、<8型>から見立て直す 2 自己愛性 PD / 模擬事例 PD 診断を受けた事例を見立て直す	■ 事例検討

* 模擬事例は上記内容と変わる場合があります。

■ カウンセリング講義・精神医学講義

I. 全8型を完成させます。あらためて成人期の視点＝「倫理規範」について考えます

<見立て8型>の全体像と倫理規範との関係 4つの見立てを学んで<見立て8型>を完成させます。<見立て8型>は成人期の心理発達の視点から見た「悩み」と「不適応」の分類です。この視点が社会全体の中でどのような位置にあるのかを検討して全体像を完成させます。

学童期 / 「成人学童期」 学童期は親や先生から倫理規範を学び、それに従うという発達段階です。子どもの悩み（葛藤）は精神症状ではなく、身体化症状（腹痛・抜毛・チック）として現れます。一方、暦年齢は成人に達していても心理的には学童期にとどまっている人がいます。当セミナーでは「成人学童期」と名づけています。「成人学童期」の症状もまた身体化症状が中心です。講義では思春期を越えられなかった「成人学童期」の人がどのような不適応を起こしているか、また親が「成人学童期」の場合、子にどのような心の問題が生じるかを、拒食症、不登校問題などを取り上げて検討します。

II. HCM のカウンセリング技法：5 ステージ傾聴技法と<葛藤崩壊療法>の全体を学びます

5 ステージ傾聴技法は①正しい見立てを作り、②援助者・治療者とクライアントの間の信頼関係を作るための技法です。傾聴技法の全体、「stage-1 黙って聴く」、「stage-2 賛成して聴く」、「stage-3 感情を聴く」、「stage-4 葛藤を聴く」、「stage-5 理解を伝える」を講義します。各 stage はクライアントの治療段階と並行します。語る言葉の背景にある深いレベルの感情と葛藤を理解し治療の進行度合い（I 期、II 期、III 期）を知り、問題の解決を予測する理論が<葛藤崩壊療法>です。

III. 遺伝：多因子疾患 / 脳の構造と機能を学びます

多因子疾患 遺伝性のある精神疾患はそのほとんどが多因子の遺伝要因と環境要因の相互作用によって発症します。統合失調症を例に挙げて、遺伝のメカニズムを学習します。

脳の構造と機能 アルツハイマー型認知症は脳の「海馬」という部分から発症します。脳全体の構造と機能を学習します。

IV. 精神障害・発達障害の理解を広げます（テーマ別コース：「現場で重要な3つの精神疾患を知る講座」と合同）

6- 自閉症スペクトラム障害 自閉症スペクトラム障害は対人的相互関係・社会関係の質的な障害です。これは知的能力障害者の「幼い愛着関係と未熟な社会適応の様式」とは全く異なるものです。自閉症スペクトラム障害はその知的能力の程度によって、適応の様式やその問題の現れ方は大きく相違し、見立ての誤りを招くこともあります。講義では「知的問題がない」事例をとりあげて自閉症スペクトラム障害の本質を講義して、他の発達障害との鑑別ができるようにします。

7- 統合失調症・統合失調症型障害 統合失調症は慢性・遺伝性の脳疾患で、前駆期、急性期、寛解期、慢性期と特徴的な経過をたどり、経過中に異なる2つの症状、<陽性症状＝急性の幻覚妄想>と<陰性症状＝慢性期の生活障害>が現れます。2つを混同すると疾病の本質を見逃します。また、各症状に対する治療法と対応できる専門機関も異なります。脳疾患としての精神医学的理解、疾病による喪失体験という心理的理解、そして社会適応レベルの低下に応じた支援を学びます。

8- 認知症・高次脳機能障害 認知症・高次脳機能障害は脳の器質性疾患です。これらは発症するまでに一度は正常な心理発達を遂げ成人として社会適応ができていた期間があるため、発病による能力低下が大きな「喪失体験」となります。発症は家族にも心理的混乱をもたらし、家族の心理発達段階（<見立て8型>の組み合わせ）によっては支援・介護の中で問題が生じます。これらの関係を精神医学的、心理的な視点から検討し、家族全体の見立てができるようにします。

V. 現場で「見立ての誤り」の多い疾患概念を取り上げ、<見立て8型>からこれを学び直します

パーソナリティ障害 (PD)/ 「共依存」・「AC」・「バーンアウト症候群」を見立て直す

PD 概念は、伝統的なドイツ医学や精神分析などから派出した全く異なる疾病概念が寄せ集められたもので、診断基準も、妥当性、信頼性に問題のあるものが少なくありません。その結果、PD の診断と治療の現場は混乱したものになっています。また「共依存」・「AC（アダルトチルドレン）」・「バーンアウト症候群」の概念も、定義が乱立し、事例を精査すると異なる見立てが混在して使われています。そこで、<見立て8型>からこれらの一つずつ見立て直していきます。

■ 事例検討会（会場のみのプログラムです / オンライン配信はありません）

事例検討会

参加者から提出された現在進行形の事例を検討します（守秘義務厳守）

16:00-18:00 (会場のみ)	
全 12 回 毎月日曜日	■ GSV(グループスーパービジョン) 毎月の本コース（基本コース・上級コース）の終了後に実施します。本コースから引き続いて参加される方と、事例検討会から合流する方がいます。 参加者から提示された事例をその場で分析していきます。2時間で1～2事例を行います。

テーマ別コース

子ども虐待を理解するための3連続講座・現場で重要な3つの精神疾患を知る

子ども虐待を理解するための3連続講座

	午前 / 10:00-12:00	午後 / 13:00-15:30	16:00-18:00 (会場)
1 5月25日	■ 講座：なぜ虐待が起こるのか？ 1. 虐待する親の特性 2. 「軽度」知的能力障害について簡単に 3. 虐待する親の特徴とされているもの 4. 虐待する母親を3つのタイプに分けて理解する	■ 2 虐待研究と回復事例 1. 愛着研究に至る、虐待研究プレビュー 2. 代理ミュンヒハウゼン症候群 3. 被虐待のトラウマを抱え、子育てをしている女性の回復事例（産後うつ）	■ 事例検討
2 7月13日	■ 5 「軽度」知的能力障害と児童虐待 < 基本コース第4回と合同開催です >	■ 演習Ⅲ. 「軽度」知的能力障害	■ 事例検討
3 9月28日	■ 6 非定型心理発達 被虐待者「異邦人」 < 基本コース第5回と合同開催です >	■ 演習Ⅳ. 被虐待者「異邦人」	■ 事例検討

現場で重要な3つの精神疾患を知る講座

	午前 / 10:00-12:00	午後 / 13:00-15:30	16:00-18:00 (会場)
1 6月15日	■ 4 統合失調症と統合失調症型障害 < 上級コース第3回と合同開催です >	■ 演習Ⅱ. 統合失調症	■ 事例検討
2 8月24日	■ 5 自閉症スペクトラム障害 < 上級コース第4回と合同開催です >	■ 演習Ⅲ. 自閉症スペクトラム障害	■ 事例検討
3 10月19日	■ 6 認知症・高次脳機能障害 < 上級コース第5回と合同開催です >	■ 演習Ⅳ. 脳機能障害	■ 事例検討

■ クライアントの見立て、家族の見立てとコンステレーション、見逃している葛藤、解決像と今後の方針

〈見立て 8 型〉〈5 ステージ傾聴技法〉〈葛藤崩壊療法〉

事例の提示方法は別途詳しくご案内しますが、あらかじめプリントを用意する方法とその場で口頭で提示する方法があります。1 事例を 1 時間程度で行います。提示された事例を〈見立て 8 型〉と〈5 ステージ傾聴技法〉で詳しく分析して、①クライアントの見立てを作ります。ついで②家族それぞれの見立て、さらに③家族のコンステレーションを検討します。これらの見立てが出来上がったら前半は終了です。見立てが確定するまで非常にダイナミックなやりとりが行われます。後半では今後の治療・ケースワークの方針を立てることになります。そのために、カウンセリングの場合はカウンセラーが見逃している「隠れた葛藤」がないかどうかを検討します。ケースワークの場合は、クライアントの周りで一番困っている人（クライアントを心配している人）が誰かを分析してします。これらをふまえて今後の具体的な治療・支援方針を立てていくことになります。

■ 子ども虐待の真の原因は？ 「虐待の世代間連鎖」のように見えるものの正体は？愛着の傷とは？

虐待の原因 / 虐待する母親の特性 / 「虐待の世代間連鎖説」の研究レビュー / 被虐待者の心の傷（複雑性 PTSD）の回復過程

なぜ虐待が起こるのか、「普通」では決して虐待は起きません 虐待研究の中ではこれまで虐待する親の分析はあまり行われてきませんでした。子どもを虐待をする母親の特性を厚生労働省のデータ（『子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について』）の分析から明らかにします。母性が「普通に」機能している家庭では決して虐待は起こりません。なぜなら母親が子の苦しみや痛みを我がことのように感じてしまうと虐待のようなことは決してできないからです。

虐待の世代間連鎖説について検討します 「虐待をされて育った人は親になってから自分の子を虐待する」という虐待の世代間連鎖説は今でも広く信じられています。しかし、本当でしょうか？セミナーでは児童虐待問題が広く社会に認識されるようになった 1962 年の Kempe の論文以降の虐待研究をレビューして最新の愛着研究の知見を報告します。虐待は連鎖しないという結論が出てきています。しかし一見連鎖のように見えるものがあります。それは何でしょうか。

虐待を受けた心の傷（複雑性 PTSD / 解離性障害 / 反復性うつ病 / 燃え尽き症候群など）は適切な治療で回復します 被虐待者の心の傷とは「愛着」を否定された傷です。子が母親に近づきたい気持ちが愛着で、生まれつきの根本的な欲求です。虐待を受けると子はこの欲求を頭から否定されてしまいます。その結果、子は自分は生まれてくる価値がなかったと自分を責めて、自己否定が生涯を通じての大きな傷になります。しかし、自分が受けてきた虐待の傷を知り、その原因となった家族関係を理解すると心の傷は回復します。子育てをしている女性の回復事例（産後うつ）からその回復のプロセスを学習します。

■ 精神疾患の正確な理解を持って現場での支援に役立てましょう

現場で大切な 3 つの精神疾患：統合失調症 / 発達障害・自閉症スペクトラム障害 / アルツハイマー型認知症を学び直す

デイケア・作業所・就労支援・介護などの現場で最も大切な 3 つの精神疾患をもう一度学び直します。専門学校や大学で学んだ知識を、現場を知った目からもう一度振り返ると全く違った側面が見えてくるはずです。

統合失調症・統合失調症型障害 統合失調症にはまったく異なる 2 つの症状があります。急性期の陽性症状（幻覚妄想状態）と慢性期の陰性症状です。前者は激しい精神的興奮を伴う発症時の主要な症状ですが、服薬で落ち着きます。一方、後者は社会適応レベルを低下させる慢性的な症状です。これには薬はあまり効きません。クライアントはどちらの症状が中心なのか、2 つの症状をしっかりと区別して支援することが大切です。

発達障害・自閉症スペクトラム障害 発達障害は 4 つに分類されています。1. 知的能力障害、2. 学習障害、3. 注意欠陥多動性障害、4. 自閉症スペクトラム障害です。1～3 の症状は互いに連続性があり、社会・人間理解が同年代に比較して未熟です。一方、4. 自閉症スペクトラム障害は全く異なる異質な人間理解をしています。両者を区別しないで、同じ方針で支援すると自閉症スペクトラム障害の人は追い詰められてしまいます。違いを理解して支援方法を再検討していきましょう。

アルツハイマー型認知症 3 大認知症のうち、1. アルツハイマー型認知症は記憶障害（物忘れ）から始まり、その進行はゆっくりです。2. レビー小体型認知症は睡眠障害や歩行障害などから始まります。3. 脳血管性認知症は脳出血・梗塞などの突然の出来事から始まり身体の一部の麻痺を伴います。3 疾患に共通なことは、以前の正常な社会的な機能を失ってしまうことです。その無念さや不安が認知症の問題行動の背景にあります。そこを理解すると支援方法が変わります。



HCM カウンセリングセミナー 2025

(ハイブリッド方式で開催)



Zoom アプリによるリアルタイム配信



会場開催 東京・御茶ノ水ソラシティ 1階 Room B

ご自宅のパソコン、スマホ、タブレットで かんたんオンライン受講

1. あらかじめ端末にZoomアプリをインストール



2. セミナー3日前に事務局からZoom視聴用URLのメールが届く



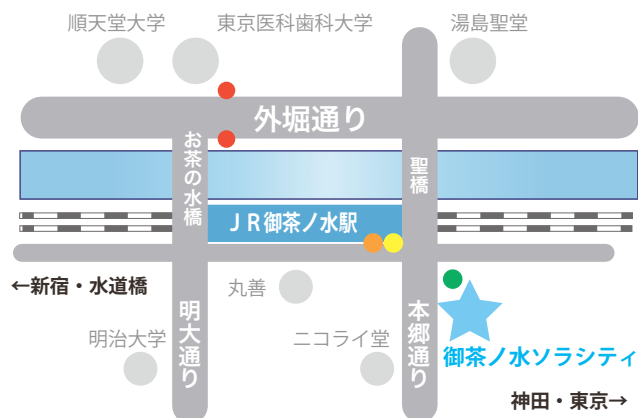
3. セミナー当日、URLにアクセスして視聴開始!



御茶ノ水ソラシティ

03-6206-4855

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 4-6



- JR 御茶ノ水駅 聖橋口 1分
- 地下鉄千代田線 新御茶ノ水駅 B2 出口 2分
- 地下鉄丸の内線 御茶ノ水駅 1・2番出口 4分



主催 HCM

専門家のためのカウンセリングセミナー

■ 一般社団法人 HCM カウンセリングセミナー事務局
(あさくさばしファミリーカウンセリングルーム内)

■ 〒111-0053 東京都台東区浅草橋 1-3-15 リバーサイド浅草橋 803

tel 03-5809-2589 (お問い合わせは下記メールまでお願い致します)

■ <https://hcm-seminar.net>

■ E-mail : info@hcm-seminar.net